

第11回原子力安全検証委員会 議事速報

1. 原子力発電の安全性向上に向けた取組状況および監査結果

(1) 美浜発電所3号機事故の再発防止対策の実施状況

美浜発電所3号機事故の再発防止対策の実施状況について報告し、審議。主なご意見等は以下の通り。

- 地元の方々に取組状況を分かっていたくことは大切であり、引き続き、進めていただきたい。(加賀委員)
- 対策にはよく取組まれており、評価している。ただ、「再発防止対策」と「未然防止対策」とは分けて考える必要があるのではないか。タイトルは美浜発電所3号機事故再発防止対策となっているので、標題と取組項目の整合性を確認されたほうがよい。(岩崎委員)
- これからの取組みとして、リスクに対する認識を持つことと、運転経験等を生かして、美浜発電所3号機事故再発防止対策を一般化して、強化を目指してほしい。(山口副委員長)

(2) ロードマップの平成28年度上期の進捗状況

「原子力発電の安全性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みのさらなる充実(ロードマップ)」の平成28年度上期の進捗状況・同監査結果について報告し、審議。主なご意見等は以下の通り。

- 防災訓練のシナリオ作成者は、原子力規制庁の基準を用いた評価の結果に一喜一憂するのではなく、問題点や弱点を見つけるための挑戦的なシナリオを作成してほしい。(安部委員)
- 防災訓練を評価する原子力規制庁には原子力規制庁としての評価の判断基準があって評価していると思う。事業者としても自主的安全性向上に取り組んでいる観点から、より良いものにしていくために自らも独自の視点をもって評価する必要がないか。(山口副委員長)
- 訓練を行う目的は、それを実際に行ってみて、不都合や弱点を見つけて、これらをより良いものに改善していくことだと思う。(渡邊委員長)

- ロードマップの取組みをハード対策、ソフト対策に分けるのではなく、安全性向上への取組みの本質は何なのか、を考えて、その目的を明確にした位置づけでの資料のまとめ方等を工夫してほしい。(岩崎委員)
- 40年超の取組みは関西電力がパイオニアなので、リーフレットを作成する等、住民の不安に答えることにもしっかりと取り組んでほしい。(山口副委員長)
- 「40年以降の運転」に関するリーフレットを作成される際、目的や誰を対象にするか、考えて取り組んでほしい。不安や心配をいかにほぐしていくか、丁寧な説明や、真摯な気持ちをベースにした説明の仕方を検討してほしい。(加賀委員)
- 「40年以降の運転」のリーフレットを作成する時、福島第一原発事故以前のように「大丈夫です」、「安全です」と一方的に発するのではなく、残余リスクはあるという視点も入れて作成されたい。(安部委員)
- 原子力防災において、5社の相互協定は、社会から見ても安心が増すので、良い取り組みであり、しっかりと取り組んでほしい。(山口副委員長)
- リスクマネジメントに関して、具体的な実施事項をチェックシート化して、その確認に資するのはいいことだが、毎年同じように実施していると慣れが起こり、十分に確認をしないまま、チェックだけをするようなことになる恐れもある。形骸化しないようにチェックシートを設けた主旨等を繰り返し理解させる必要がある。(渡邊委員長)
- 平成27年度までは、福島第一原発事故の教訓や新規制基準の要求といったゴールが見えていて、そのゴールを達成するために訓練やリスクマネジメント等の計画策定、実施により、概ね達成したというのが今のフェーズだと思う。これからのフェーズは、中期的に、例えば5年後に安全への取組みをどういう姿にするかという目標を明示し、それに向かってそれぞれの年は何をするという計画を立て、実施していくアプローチが良いと思う。(山口副委員長)
- かなり質の高い監査を実施されている。今後とも監査を受けた者が監査を受けて良かったとなるような、プラスになるような監査をしてほしい。(岩崎委員)

2. 原子力安全検証委員会からいただいたご意見を踏まえた取組状況

原子力安全検証委員会からいただいたご意見を踏まえた取組状況について報告し、審議。ご意見等は特になく、了承。

以 上